

清流劇場2023年3月公演

SEIRYU
THEATER

セチュアンの善人



善人であれ、しかも生きよと

原作:ベルトルト・ブレヒト
上演台本・演出:田中孝弥
翻訳・ドラマトゥルク:市川明

出演:

アンディ岸本

上田泰三(MousePiece Tree)

高口真吾

日永貴子

曾本亜古弥

八田麻住(マズミノソラ)

福永樹

中迎由貴子(遊気舎)

植村早智子

村田麻美

新まおり

廣瀬ひなた

音楽・ピアノ演奏:仙波宏文

チェロ演奏:谷川千佳

2023/3/9 Do.▶▶▶12 So.

一心寺シアター倶楽

原作:ベルトルト・ブレヒト
上演台本・演出:田中孝弥
翻訳・ドラマトゥルク:市川明

清流劇場2023年3月公演

SEIRYU
THEATER

セチュアンの善人

2023年3月9日(木)~12日(日)

9 10 11 12
木 金 土 日
14:00 ● ● ● ●
19:00 ● ● ● ●

◆終演後、アフタートークがあります→出演者はwebで公表します。
※各回、開演15分前から田中孝弥によります《ピフォアトーク》を行います。

一心寺シアター倶楽

〒543-0062 大阪市天王寺区逢阪2-6-13 B1F
tel.06-6774-4002
http://isshinji.net/kura/index.html

※各線「天王寺駅」、Osaka Metro谷町線「四天王寺前太陽ヶ丘駅」、
堺筋線「恵美須町駅」より、徒歩約15分。
※お客様用駐車場はございません。
お車で越しの場合は近くのコインパーキングをご利用ください。

入場料金(税込):全席指定席※1
一般前売券4,500円 当日券4,800円※2
ペアチケット8,400円
U-22券2,500円(22歳以下の方を対象。当日受付にて、要証明書提示)
シニア券4,200円(65歳以上の方を対象。当日受付にて、要証明書提示)

※1 座席指定番号は、予約・購入順となり、当日受付でのお知らせとなります。詳細についてはウェブサイトをご覧ください。

※2 当日券のお客様は、開演10分前からの入場となります。完売の際は、当日券の販売はありません。

- 開演45分前より受付開始。開場は開演の30分前です。
- 小学生以下のお子様は入場できません。
- 作品上演中の入場は制限させていただく場合がございます。
- 会場内での喫煙・写真撮影は禁止です。



チケット取扱い

①クレジット決済/PayPayをご利用の場合:
PassMarket(<https://passmarket.yahoo.co.jp>)よりご購入ください。

〈購入/申込完了〉の自動返信メールをお送りします。

②銀行振込の場合:

清流劇場ウェブサイト内の「ご予約フォーム」より必要事項をお知らせください。

〈振込先口座のご案内〉をメールにてお送りしますので、手続きをお願いします。

着金確認後、〈ご購入完了〉のメールをお送りします。

(振込期限は、3月2日(木)です)



★①②いずれの場合も、
開演5分前にご来場されていない場合、
座席指定は解除となります。

スタッフ

舞台監督:大野亜希 舞台美術:内山勉 舞台美術アシスタント:新井真紀 照明:岩村原太 照明オペ:木内ひとみ

音響:ふじわらゆうこ 音響オペ:樋口華子 衣装:加藤沙知 小道具:濱口美也子 ヘアメイク:島田裕子 振付:東出ますよ

写真:古都米二(㈱テス・大阪) ビデオ:岩本純一 宣伝動画:板倉善之 web・制作協力:飯村登史佳

宣伝美術:東學(一八八) 演出助手:大道具:K-Fluss

特別協力:森和雄・木井礼子

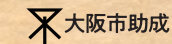
協力:(株)リコモーション (有)ライターズ・カンパニー イズム アンサンブル・サビーナ

堀内立誓 丹下和彦 柏木貴久子 森池日佐子 谷川千尋 佐々木治己 川口典成

提携:一心寺シアター倶楽

制作:永朋

企画:一般社団法人清流劇場



清流劇場web: <https://seiryu-theater.jp>

fax:06-6429-8387 (faxでのご予約も受け付けております。申し込み期限は、3月2日(木)です)

お問い合わせ:清流劇場 ●e-mail: info@seiryu-theater.jp ●tel:080-2487-1347

□清流劇場ウェブサイトのご案内

☆COVID-19感染予防対策に関する劇団の取り組みやお客様へのお願いについて、お知らせしています。ご来場前に必ずご確認ください。

☆清流劇場では公演サポーター(個人様からの寄付)を募集しています。コースによって、いろいろな特典もご用意しています。ご支援をよろしくお願いします。

☆過去作品のダイジェスト映像や舞台写真を公開しています。是非、ご覧ください。

変身

『セチュアンの善人』の面白いのは、主人公シェン・テという女性が男性に変身したり、また女性に戻ったりするところだ。

窮地に陥ると変身し、ひと段落すると元に戻る。ヒーローものによくある話だ。

ただ、このお芝居で問題なのは、女性がわざわざ男性にならないといけないことだ。女性が活躍するのに、男性の仮面が必要な社会。それは古い時代の話だけではない。現代社会でも《ガラスの天井》は厳然とあって、女性が不利益を蒙っている。

医学部入試の女性差別や、国会をはじめとする議員たち・企業経営陣の女性比率が低いことを見れば、それは明らかだ。

しかし、世の中は、《男女のバランスを正常に整えること》をなかなかしようとしな。弱い立場の人への支援や配慮が滞りがちなのもそうだ。

弱い者は弱いままで。

シングルマザーの生活困窮、学生への高利の奨学金貸与、人材派遣会社の悪辣な中抜き。おかしい。世の中は変わらなければならない。

な、そうやんな。ボくら、もっと声上げなあかで。

——と、いくぶん肩に力が入りながら、若い人に話すと、

「今の世の中、まんざら悪くないんじゃないすか。」

「声上げるとか、代償が大きそうやし、周りの評判が気になります。」

「嫌われるん怖いし、いつも自分が受けてる評価やイメージを壊さんように、むしろさらに《そのキャラクター》を強調して演じつつ、暮らしたいです。」

うーむ、ボクはわからなくなってきた。

いや、待て。ボクは何をわかってたんだ？

ボクの方こそ、《変わることを求めない人たち》の気持ちに思いを馳せてきたか？

このお芝居を通じて、まず変わらねばならないのはボク自身だ。

田中孝弥

天上にいる神様は、貧富の差が広がる資本主義社会での《人間の道徳観の乱れ》を聞かされ、心配して地上に降りてくる。

実際に善人を探してみるが、なかなか見つからない。

しばらく後、神様は娼婦シェン・テと出会う。

シェン・テは善人で、神様に一晚の宿を提供する。

翌朝、神様はシェン・テに「善人であり続けよ」と言い残し、宿賃を渡して姿を消す。

神様から授かったお金で、シェン・テは娼婦を辞め、小商いを始める。

それを聞きつけた貧乏人たちは、彼女の人の良さにつけ込んで家に押しかけ、居候を決め込む。

貧乏人たちに集られて、店をつぶされそうになったシェン・テは、心ならずも自分の分身を作ることにする。

分身とは彼女の従兄弟シュイ・タで、非情で合理的な人間。

シェン・テはシュイ・タに変身すると、居候たちを家から追い払い、反対に彼ら貧乏人たちをこき使い、店を大きくしはじめる。

あなたたちの言葉が、私を真つに引き裂いたんです。

Andy Kishimoto



アンディ岸本

Taizo Ueda
(MousePiece-tee)



上田泰三
(MousePiece-ree)

Shingo Takaguchi



高口真吾

Takako Hiraga



日永貴子

Akoya Sogi



曾木亜古弥

Masumi Hata
(Masuminosora)



八田麻住
(マズミノソラ)

Itsuki Fukunaga



福永樹

Yukiko Nakamukai
(Yukisya)



中迎由貴子
(遊気舎)

Sachiko Uemura



植村早智子

Mami Murata



村田麻美

Maori Atarashi



新まおり

Hinata Hirose



廣瀬ひなた

Hirofumi Semba
(Komposition & Klavier)



音楽・ピアノ演奏
仙波宏文

Chika Tanigawa
(Cello)



チェロ演奏
谷川千佳